

事務事業評価の評価結果について（平成27年度の事業に対する評価）

河芸総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成27年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成28年度以降の事業の方向性	所見
地域振興課	地域かがやきプログラム事業（河芸総合支所）	地域を担う人材育成を図るとともに、地域住民主体による事業展開を行い、地域の活性化をめざします。	イベント等の参加人数	地域を担う人材育成と地域住民主体の事業展開をめざす事から、イベントや教室・講座の参加人数を指標とします。	5,200人	5,530人		実行委員会等で計画・運営され、事業の目的はほぼ達成されています。	3	多文化共生推進事業については、語学指導や教育支援の受講者は徐々に減少傾向となっているが、概ね計画どおり実施された。研修会も今までの学校関係者から地域住民対象に移行したことにより、地域全体の理解を深めることができました。「ふれあいネットワーク事業」についても更に参加者を増やすために啓発活動に努めます。スポーツレクリエーション大会やフェスタinかわげについては、地域の認知度も高まり、ほぼ達成されているものの、魅力ある事業を継続するために、地域に密着した住民主体の事業展開が求められる。特産品開発事業については、平成26年度で終了したが、これまで開発された特産品の「河芸のにぎやかかゆ寿司」や「黒米おはぎ」などの完成品を「道の駅・津かわげ」で継続的に販売していけるよう製造販売体制の確立と地元での知名度向上など、継続した努力が求められます。	現状維持	住民ニーズや地域の課題に対し、地域社会を担う多様な人材育成を図ります。スポーツ大会やイベントを開催することにより、施設及び地域資源の有効活用を進め、地域住民の交流や健康増進を図ります。河芸地区特産品開発事業については、平成26年度で終了したが、この事業で培われたメニュー等が「道の駅・津かわげ」で地域の特産品としてPRし、売り上げ向上で引き続き地域の活性化につなげていきます。
地域振興課	地域インフラ維持事業（河芸総合支所）	道路、河川、公園及び交通安全施設等の維持補修に係る地域住民からの要望等に対し、迅速かつ柔軟に対応し、課題を解決することを目指します。	要望に対する迅速かつ柔軟な対応の推進	道路、河川、公園及び交通安全施設等の補修に係る要望等に対し、対応方法を迅速かつ柔軟に検討し、修繕等により、早急に課題解決を図ります。			地域住民からの要望（インフラ整備・補修）に対する迅速かつ柔軟な対応の推進	優先順位の高い事業については、迅速かつ柔軟な対応ができました。	4	道路、河川、公園及び交通安全施設等の維持補修に係る地域住民からの要望等に対し、89件については迅速かつ柔軟に対応することができました。	拡充・充実	自治会等の要望事業を全てを解決することが出来なかったが、少しでも多くの事業の早期解決に向け努力します。
地域振興課	地域インフラ補修事業（河芸総合支所）	道路、河川、公園及び交通安全施設等の維持補修に係る地域住民からの要望等に対し、迅速かつ柔軟に対応し、課題を解決することを目指します。	要望に対する迅速かつ柔軟な対応の推進	道路、河川、公園及び交通安全施設等の補修に係る要望等に対し、対応方法を迅速かつ柔軟に検討し、原材料を活用した技能員による直営作業により、早急に課題解決を図ります。			地域住民からの簡易な修繕や補修など要望等に対し、原材料を活用し、技能員等による直営作業にて、迅速かつ柔軟な対応の推進	地域要望に対し、迅速な対応ができました。今後も一層の迅速かつ柔軟な対応に努めます。	4	地域住民からの簡易な修繕や補修の要望等に対し、原材料を活用し、技能員による直営作業にて、一件の事案に対して迅速かつ柔軟な対応ができました。	拡充・充実	前年度の実績を踏まえ、より一層迅速な対応が図れるように努力します。
地域振興課	地域情報発信事業（河芸総合支所）	地域住民の活動の推進のための啓発活動の一環として地域の話題を中心とした地域だよりを発行します。	地域情報誌の発行回数	地域住民活動の推進のための啓発活動の一環として、地域の話題を中心とした地域だよりを発行します。	4回	4回		地域情報誌「かわげだより」を年4回発行することができました。	4	地域の話題を中心とした地域だよりを年間計画どおり発行できました。	現状維持	今後も継続して地域に密着した地域だよりを発行できるように努めていきます。

河芸総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成27年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成28年度以降の事業の方向性	所見
地域振興課	体育館管理運営事業（河芸総合支所）	スポーツを通じて、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。		市民の健康づくりや競技力の向上のため津市河芸体育館の利用者数を指標とします。	44,000人	46,120人		不具合個所の修繕の施工を進め、利用環境を快適にし利用者数のさらなる向上を図ります。	3	引き続き施設の適正な維持管理を行い、利用者数の増加を目指します。現状の不具合個所については、着工できるよう働きかけていきたいと思ひます。	拡充・充実	現在まで未施工だった不具合個所の修繕を進めることで、利用環境を改善し利用者数の増加を目指したいと思ひます。
地域振興課	グラウンド管理運営事業（河芸総合支所）	スポーツを通じて、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。	運動施設利用者数	市民の健康づくりや競技力の向上のため、津市河芸第1グラウンド、津市河芸第2グラウンドの利用者数を指標とします。	40,000人	46,048人		使用料収入については、3.5%の微増でしたが、利用者数は対前年度比で約7,000人・17%増と昨年を大きく上回りました。第1はソフトボール、第2はサッカーの利用がメインとなっています。	3	引き続き施設の適正な維持管理と必要な補修を行います。両グラウンドが接していることからソフトボールやグラウンドゴルフ等の大きな大会の利用が多く、引き続き利用者数増加が見込める状況です。目標値については、前年度実績を上回るような数値を指標としたいと思ひます。	拡充・充実	現在まで未施工だった不具合個所の修繕を進めることで、利用環境を改善し更なる利用者数の増加を目指したいと思ひます。
地域振興課	テニスコート管理運営事業（河芸総合支所）	スポーツを通じて、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。	利用者数	市民の健康づくりや競技力の向上のため津市河芸テニスコートの「利用者数」を指標とします。	6,500人	6,140人	前年度実績を上回る事	固定客が多く、河芸以外の地域の利用が少ないため、利用状況は伸び悩む傾向にあります。	3	昨年度に不具合のあった個所は今夏修繕予定で概ね不具合個所はなくなりますが、屋外コートのためネット等の消耗品の劣化が激しいので状況を常に把握していく必要があります。	拡充・充実	現在まで未施工だった不具合個所の修繕を進めることで、利用環境を改善し利用者数の増加を目指したいと思ひます。
地域振興課	その他運動施設管理運営事業（河芸総合支所）	スポーツを通じて、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。	個人利用者数	市民の健康づくりや競技力の向上、マレットゴルフ普及啓発のため、「個人利用者数」を指標とします。	10,000人	9,020人	個人利用者数と年間券購入者の増加	11月の全国規模の大会当日が雨天であったため、予想よりも参加者数が伸び悩んだ結果、昨年度を下回った。また年間券利用者も漸減しつつあります。	2	利用者の殆どが、従来からのマレットゴルフ愛好者かつ年間券所有者で占められています。昨年度まで僅かだった個人利用者数は漸増の傾向を見せ始めています。愛好者からは、個人利用料金が高い上に市外利用者の料金が2倍の設定では利用者の増加は見込めないとの声が多く寄せられているため、料金改定などを検討していく必要があるのは引き続きの課題であります。課題の多い施設ではあるが、施設の維持管理頻度は他の施設よりも格段に高くなっています。	現状維持	今後も限られた予算の中で、より効果的な維持管理を行い、利用者数の増加を目指したいと思ひます。

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成27年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成28年度以降の事業の方向性	所見
市民福祉課	社会福祉施設等管理運営事業(河芸総合支所)	住民の福祉の増進並びに健康保持及び健康意識の向上を図り、利用者の福祉向上を図るための施設維持管理及び利用者の自主的な福祉活動の振興を図ることを目的とします。	利用者数	地域住民のため、福祉向上及び自主的な福祉活動の振興を図るため「利用者数」を指標とします。	19,500人	18,457人		各種福祉団体、ボランティア団体が積極的に行事等を計画し広く参加者を募って利用者の福祉・文化教養等の増進を図ることができた。しかし、昨年度に比べ一般貸館利用者が減少したことにより目標値には至らなかった。今後もさらに適正な施設設備の維持管理を継続し、利用者数の増加に努めなければならない。	3	目標値は達成できなかったが、施設利用者の福祉、文化教養等の増進を図るための事業推進ができたと思います。また、施設利用者の満足度の向上にも努めました。	現状維持	「津市河芸ほほえみセンターの設置及び管理に関する条例」に基づき事業を推進すると共に、老朽化に伴う施設の修繕を行いながら、施設利用者の環境を整備し快適な市民生活に寄与していきます。